

記念展示

会場 寝殿ホール

日時 4月1日(金) 10:00～15:30 4月2日(土) 10:00～15:30

七高僧像

釈尊によって、世に顕らかにされた弥陀の本願は、三国七高僧を経て親鸞聖人へと伝えられました。

撮影：藤森 武



リゅうじゆ
龍樹菩薩

2～3世紀
(インド)



てんじん
天親菩薩

4～5世紀
(インド)



どんらん
曇鸞大師

476～542
(中国)



どうしゃく
道綽禪師

562～645
(中国)



せんだう
善導大師

613～681
(中国)



げんしん
源信和尚

942～1017
(日本)



げんくう
源空上人

1133～1212
(日本)

浄土三部経変相図

経に説かれてあることを図に「変」えて表現するので「変相」といいます。



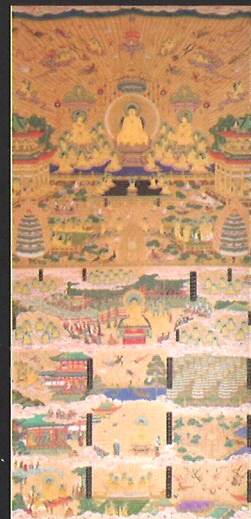
無量寿経変相図

『仏説無量寿経』とは、浄土三部経の一つであり、親鸞聖人はこれを真実の経典と位置づけられ所依の経典とされました。この変相図の中央には、阿弥陀三尊を中心とした極楽世界が描かれており、周囲には法蔵菩薩の発願・無常・地獄などの諸相が描かれています。



観無量寿経変相図

この変相図には、浄土に生まれるための行法としてさまざまな観法（ありのままに見る行法）が説かれますが、いずれの行もおよびがたき身であることから、最後にはお念仏を称えることで極楽浄土に往生できるという教説を仏画にしたものであります。

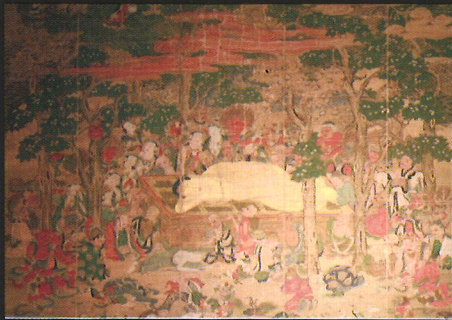


阿弥陀経変相図

この変相図には、『仏説阿弥陀経』の中で説かれるような極楽浄土や阿弥陀仏の姿が描かれ、極楽世界に生まれることを願うべきこと、そして六方（東西南北、上下）の諸仏がお念仏の教えを勧めておられることが絵相に表されています。

涅槃図

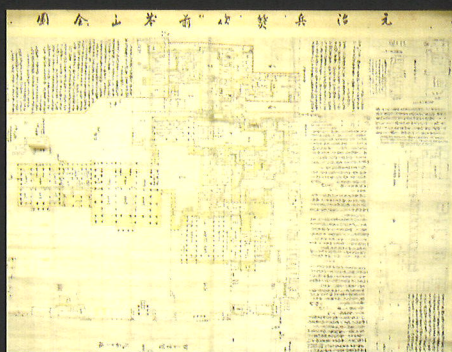
釈尊入滅の姿を画いたもの。



釈尊が沙羅双樹の下で涅槃に入られる頭北面西右脇にて臥したお姿で、周囲には弟子をはじめ菩薩、天童、鬼畜などが描かれています。本山の『御日記』によると、天明8年1月31日に大火によって本山諸堂を消失、須弥壇下に置かれた涅槃図も消失しました。本図は大火以降に某の神社より寄贈されたものであると伝えられ、年代、筆者は不明です。

元治兵火以前本山全図

「蛤御門の変」によって焼失する前の本山佛光寺全図です。



蛤御門の変は、元治元(1864)に起こりました。長州藩が勢力回復をねらい、7月19日、会津・薩摩をはじめとする幕府連合軍と京都御所蛤御門・堺町御門(さかいまちごもん)附近で戦い、長州藩は敗北しました。京都の中心部が激戦地となったため、市中はたちまち猛炎に包まれ、民家や社寺などを焼き尽くす大惨事となりました。東本願寺・本能寺・六角堂、そして佛光寺が焼失しました。

一流相承系図 (重要文化財)

お念仏の教えがどのように伝わったのかを絵によって表す形式の系図です。



佛光寺本の一류相承系図は、親鸞聖人から真仏・源海・了海・誓海・明光と伝えられたお念仏が了源上人に伝えられ、上人から更に誰へ伝えられたのかを表現しています。存覚上人が序題を書き、南北朝時代に成立しますが、後に佛光寺本と長性院本の二本に分割されました。今回、二本を同時に展示します。

善信聖人親鸞伝絵

親鸞聖人のご生涯を、絵と詞章(文章)描いた卷子物。



善信聖人親鸞伝絵は後醍醐天皇が書かれた御宸翰と伝えられ、数ある聖人の伝記の中でも、聖人が越後流罪から一時京都に帰洛されたことを記すなどの特徴があります。近年の研究により、延文5年(1360)頃、親鸞聖人100回忌の目前に製作され、三条公忠(1324~83)が詞章を書いたことが明らかになっています。



しよつ こう きん

蜀江錦

2020年11月、佛光寺のお蔵から約1300年前の飛鳥時代に織られたと考えられる法隆寺伝来の蜀江錦が見つかりました。